

教育学・心理学

**keyword**

- 歴史教育
- 歴史的見方・考え方
- 歴史的思考
- 歴史的エンパシー
- 歴史総合
- 教育課程



**原田 智仁**  
Tomohito Harada

教育学部  
特任教授

**【プロフィール】**  
 社会科教育学(歴史教育)  
 ・愛知県立高校教諭(1976-1990)  
 ・兵庫教育大学講師、助教授、教授(1990-2017)  
 ・文部科学省初等中等教育局教科調査官(併任)(1997-2008)

**【主な社会的活動】**  
 ・全国社会科教育学会(顧問)  
 ・社会系教科教育学会(顧問)  
 ・日本社会科教育学会(評議員)  
 ・高大連携歴史教育研究会

**【主な科研題目】**  
 ・基盤研究(C)「読解力を育む中等歴史カリキュラムの開発と評価モデル構築に関する研究」(2008-10)  
 ・基盤研究(B)「中等社会系教科における歴史総合・地歴相関カリキュラムに関する国際調査・開発研究」(2011-13)  
 ・基盤研究(B)「米英独における評価の高い歴史授業の収集・分析とそのデータベース化」(研究代表者二井正浩、2012-14)  
 ・歴史的思考と理解の一体的形成を促すエンパシー(共感)の指導と評価に関する研究」(2015-17)

**【代表的な研究テーマ】**  
**□ 歴史カリキュラムの国際比較、開発・評価研究**

**課題解決に役立つシーズの説明**

社会科教育学研究の主たる対象領域の一つに歴史教育があるが、私は初等・中等教育段階の歴史教育について、全体計画、単元構成、授業設計、学習指導、評価を一体として捉えて、それを歴史カリキュラム論と位置付けて研究している。因みに、日本でカリキュラムといえば教育課程と受け取られ、学習指導要領や学校ごとの教科・科目編成と理解されがちだが、世界的には私の解釈が一般的である。

近年、日本では高大接続改革の一環として、高校の教育課程改革や大学入学者選抜改革が進められているが、従来にないドラスティックな改革理念が報道されていることから、高校や中学校の教員の間には不安も広がっている。私は、10年ほど前から諸外国、とりわけ米・英・独の歴史カリキュラムについて共同で研究し、現地で高く評価されている歴史教師の授業を観察・記録したり、教師の授業観を聴取したり、あるいは教材や評価資料を蒐集・分析したりしてきた(その成果の一端は、下記のウェブサイトを参照されたい。

[http://www.nier.go.jp/history\\_lessons/](http://www.nier.go.jp/history_lessons/)

こうした諸外国の動向を見据えると、日本が闇雲に改革を進めることへの期待と同時に不安も強く感じる。私自身の高校教員としての経験、文部科学省の教科調査官として1999年の高校世界史の教育課程改革に取り組んだ経験、そして中教審の委員として今回の教育課程改革、特に高校の新設科目「歴史総合」のあり方に関与した経験を踏まえつつ、文科省の説く改革のうち、何が最も優先度が高く何の優先度が低いのか、それぞれの学校の事情に応じてカリキュラム・マネジメントをどうすれば良いのか等について、一定程度の助言ができると考えている。

個人的には、上記の研究に加え、近年は社会科教育における思考と感情の関係に関心を持ち、特に歴史学習における「共感 Historical empathy」の果たす役割についても研究を進めている。それは、新学習指導要領の提起する資質・能力の三つの柱の一つをなす情意・態度(学びに向かう力・人間性)とも深く関わることから、地に足の着いた実質的な学力評価の在り方について提言したいと考えている。

例えば、高大接続改革のうち、大学ごとの個別学力調査の在り方も検討されており、資質・能力の一つである主体性について、高校時代の各種レポート等の成果データを生徒自身が記録し、その中から必要なデータを大学がネットを介して取得し評価するシステム開発もなされている。学力評価の多元化は歓迎するものの、私は各教科・科目の指導においても主体性等の情意・態度を評価すべきだと考える。無論、それは教科内容や学習の深まりと関連させたものでなければ形骸化は避けられない。

新学習指導要領の下では資質・能力の三つの柱を評価の観点として、評価規準を作成し、観点別の学習状況評価をすることになる。その際、学力ないし学習状況を階層化、構造化しておかなければ、Active Learningの目標としての深い学びを目指すことも難しくなるし、また評価基準も別途作成せねばならず、二度手間になる。そこで、私は深い歴史の学びを促す授業開発のための評価規準、及び評価基準のテンプレートを開発した。仮説段階ではあるが、下記の通りである。是非、ご意見、ご批判をお願いしたい。

**歴史の深い学びのための資質・能力の階層化**

目標の柱	知識	技能	思考 判断 表現	情意・態度
学力的階層				
知識の獲得 (知っている)	事 実	情報読解	事実に基づく 事実判断 記 述	素朴な興味・ 共感 異なる見方への 関心
意味の理解 (わかる)	概 念	探求方法	理論的思考 推 理 説 明	文脈や根拠の 吟味
活用・創造 (使える)	価 値	提 案	価値的思考 価値判断 議論・意思決定	自己の考え方の 構築

(石井英真氏の枠組みを参考:中教審答申補足資料 pp.121-122)

**企業・自治体へのメッセージ**

共同研究というより、社会科の先生方の研修に協力できるかもしれない。